

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 57
2021.1

TOPICS

1

株式会社源吉兆庵ホールディングスと連携・協力に関する協定を締結



1月21日、共同研究の実施や研究者・開発者の交流などの連携・協力を深め、SDGsの達成と地域活性化に貢献するため、和菓子製造・販売の株式会社源吉兆庵ホールディングスと連携・協力に関する協定を締結しました。

榎野博史学長は「共同研究の成果を『宗家 源吉兆庵』のブランド力を活用させていただいて国内外に発信し、岡山のイメージや認知度を高め、地域の活性化につなげたい」、岡田憲明代表取締役社長は「岡山大学とタイアップさせていただき、食品を通して社会貢献できる企業を目指す。今回の共同研究である発酵食品の開発により、健康面で優れたお菓子を提案し、岡山の優位性・魅力を発信したい」とあいさつしました。今後は、本協定に基づき、発酵技術を活用した健康を意識したお菓子作りや地域の農畜産物の活用、食品製造に伴う廃棄物の削減・リサイクルなどに取り組みます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9961.html

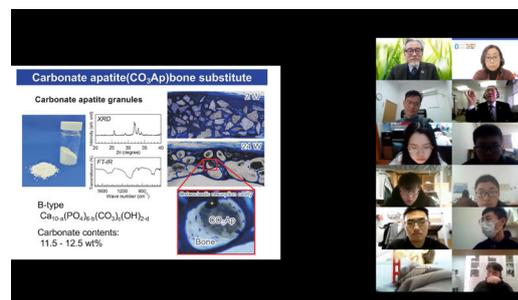
TOPICS

2

4カ国7大学の学生・教職員に向け 持続可能な材料化学を学ぶオンラインセミナーを開催

工学部は1月12～13日、持続可能な材料化学を学ぶ「工学部SDGs Seminar 2021 Winter」をオンラインで開催し、4カ国7大学の大学生・教員52人が参加しました。阿部匡伸工学部長のあいさつに続き、大学院自然科学研究科(工)尾坂明義特命教授、福岡歯科大学・都留寛治教授が材料化学に関して講演。工学部独自の取り組みであるフォーミュラや特徴的な化学実験を、映像で紹介するなど、オンラインならではの「学び」を共有しました。

参加大学はいずれも2014年～2018年に本学工学部を中心として実施した、JSTの日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」に参加しており、工学部との共同研究や留学生の受入れなどの国際交流を継続しています。本セミナーは、今後実施予定の国際的な高大連携プロジェクトの参考とするため、岡山県立岡山一宮高等学校教諭にも公開しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9960.html

Pick up!

～TFT5000食突破記念企画～ 期間限定！ヘルシースパイスカレーの提供を開始



TFT…日本発の社会貢献運動。先進国の参加者と開発途上国の子供たちが、時間と空間を越え食事を分かち合うことで、先進国の飽食と開発途上国の飢餓の同時解決を目指すというもの。

平成31年4月より岡山大学生生活協同組合で提供している、開発途上国の子どもの給食を支援する TFT (TABLE FOR TWO) メニュー・TFT 弁当の提供数が5000食を突破したことを記念して、期間限定で『ヘルシースパイスカレー』(440円(うち20円が募金分))の提供がピーチユニオン3階で始まりました。

本企画は、「TFT5000食達成を記念に、TFTにもっと注目してもらいたい」との思いから、SDGsアンバサダーの北風あみさん(法学部2年)が中心となり企画。1週目(1月25日～29日)のバターチキンカレーには、クミン、コリアンダー、ターメリック、カルダモン、カイエンペッパーの5種類のスパイスを使用。2週目(2月1日～5日)は、バターチキンカレー(20食)に加え、超スパイシーカレー(10食)を提供します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9971.html

TOPICS

3

放送文化部の作品が NHK全国大学放送コンテストで1位・2位を獲得！

全国の大学や専門学校に所属する団体が参加する「第37回NHK全国大学放送コンテスト」本選が12月5日、京都で開催され、放送文化部がラジオ番組部門で1位、映像CM部門で2位に輝きました。

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、事前収録が可能なアナウンス・朗読・音声CM・ラジオ番組・映像CM・映像番組部門に限った開催となり、全国の71団体が355作品を応募。予選を通過した作品が本選で1位を競い、放送文化部は、作品『踏み出した先に』がラジオ番組部門46作品の中で1位、作品『伝』が映像CM部門36作品の中で2位になりました。

両作品で制作代表者を務めた越智悠葵さん(法学部2年)は、今回のダブル受賞という結果を受け、「コロナ禍でひとりの時間が増え、自分自身や『放送』の活動と、より深く見つめ合えました。そして、周りの人の大切さも再認識できました。これからも、自分を愛し、周囲に感謝して過ごしていきたいです」と話しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9911.html



TOPICS

4

漕艇部の「翠葉」が 関西学生秋季選手権代替特別大会で準優勝！



本学漕艇部の女子ダブルスカル「翠葉」が、昨年12月5日に大阪府立漕艇センター(大阪府高石市)で開催された「関西学生秋季選手権代替特別大会」で準優勝しました。

本大会には、本学のほか、関西大学、滋賀大学、京都大学、関西学院大学、大阪大学、鳥取大学、龍谷大学、大阪府立大学が参加。女子ダブルスカル「翠葉」(クルー：文学部2年岡崎あや、環境理工学部2年堀江里彩)は2年生以下の部に出漕し、準優勝に輝きました。

堀江さんは「苦手としていたスタートで他のチームに離されることなくついていくことができ、レース中盤でもペースを落とすことなく漕ぎきれたことが結果につながった。これからも練習に励んでいきたい」と話していました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9925.html

PRESS
RELEASE

窒化ホウ素の高いガス吸着能を立証！ ～炭素材料に替わる新たな吸着材としての利用開拓へ～

大学院自然科学研究科(理)の大久保貴広准教授らの研究グループは、異分野融合先端研究コアの仁科勇太研究教授、長崎大学大学院工学研究科の瓜田幸幾准教授らと共同で、セラミックス材料の一つである窒化ホウ素が耐熱性と耐酸化性に優れたガス吸着材として利用できることを発見しました。

研究成果は2021年1月4日、英国の王立化学会(Royal Society of Chemistry)発行の科学雑誌「RSC Advances」電子版に掲載されました。

研究グループは、ナノ空間を有する窒化ホウ素を合成し、液体窒素温度(-196℃)下における窒素ガスの吸着量について圧力による変化を活性炭の場合と比較して検討。その結果、窒化ホウ素由来の吸着材の方が、活性炭よりも窒素分子を吸着する能力が高いことがわかりました。この結果は、窒化ホウ素の表面と窒素分子との相互作用が、活性炭表面と窒素分子間の相互作用よりも大きいことを示しています。また、空気中で焼成しても少なくとも700℃までは構造が維持されていることから、窒化ホウ素を用いることにより、耐熱性・耐酸化性にも優れた新たな吸着材の開発が可能であるとの道筋が見えてきました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id805.html

